

Blocking

機能

連続データから刺激区間を中心にデータを切り取り、取り出します (ブロッキング)。このことにより、連続データは区間データに変換されます。

連続データは (時間 × CH × 種類 (Oxy Deoxy Total)) の 3 次元配列ですが、区間データはブロック × 時間 × CH × 種類の 4 次元配列になります。

データの詳細はマニュアル『基本操作』の POTATo データをご参照ください。

パラメータ設定

Relaxing time of Pre-Stimulation [sec]

刺激区間の前秒前から切り出すか

Relaxing time of Post-Stimulation [sec]

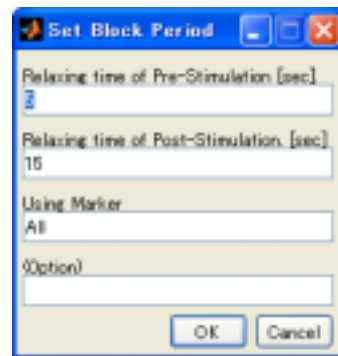
刺激区間の前秒前から切り出すか

Using Marker

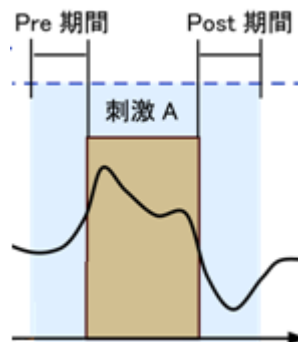
切り出す区間のマーカーを指定

刺激区間 A ならば 1 を入力、

全て選択する場合は All を指定

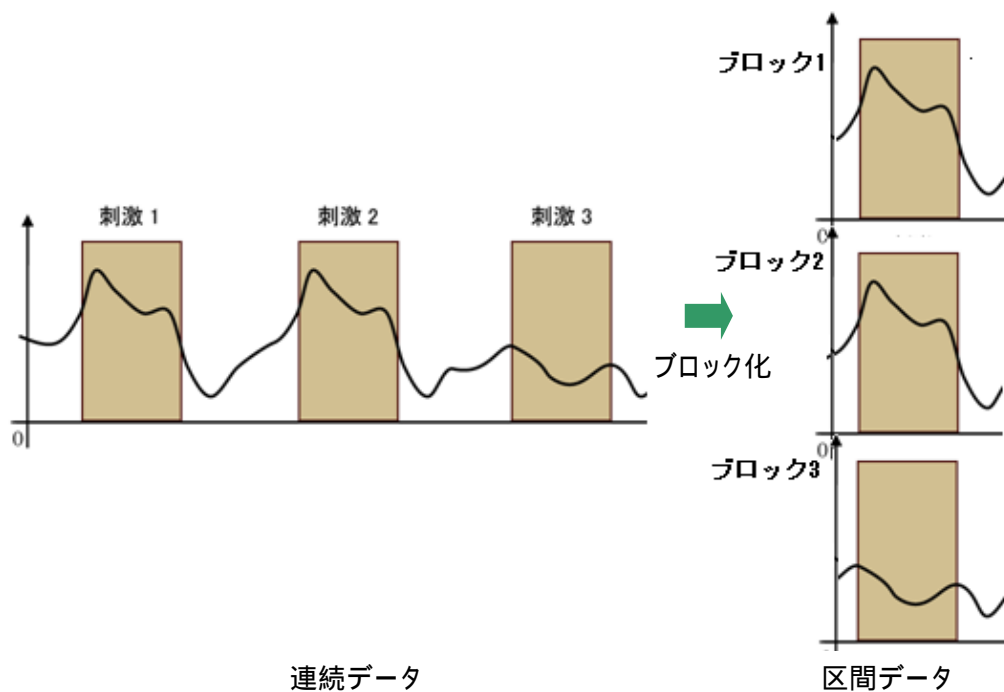


ブロッキング後、時間軸は変更され、全体のデータを時間で区切って持ちます。取り出す際、刺激があった時間だけではなく、解析・比較のために刺激の前後の時間のデータも取っておく必要があります。



詳細説明

入力の連続データと区間データのイメージを以下に示します。



実行時、区間データの刺激期間が大幅に異なる場合はエラーとなります。エラーと判定するための期間の差異の最大値は、POTAToメイン画面のSettingメニュー、Stim-Diff-Limitにより設定できます。